

【解説】今、世界や時代がどこへ向かっているのかについて、少なくとも見当外れでない判断をするためには、「グローバル」な上に「コズミック」な視点がなければならない。これをウィルコックはいつでも教えてくれる。我々のメディアは、この宇宙的な視点を故意に——あえて言えば戦闘的に——排除して報道しているから、肝心なことは何もわかってこない。

宇宙的な視点がなければ、次々に起こる驚くべき現象や事件の意味は見えてこない。我々大多数は、なぜ「隠蔽」があるのかも知らず、そもそも「隠蔽」の事実があることさえ知らない。「我々から隠され、極秘にされてきた情報の量はあまりにも莫大で、その基本を理解するだけでも文字通り何年も要するだろう。一体全体、何が起きているかを本当に理解する人は、いたとしても、この地上に数千人くらいかもしれない。(p. 4)」

「何が起きているのかを本当に理解する」わずかの人たちの大多数は、高次元世界と関わりをもつ人たちであろう。これは当然の話である。3次元世界は、3次元世界の外からでなければ本当に理解はできない。8月刊というウィルコックの *The Synchronicity Key* は、無時間的世界から時間の世界を理解する一つの試みだろうと思われる。

金融暴政は自由落下スピードで崩壊しつつある

David Wilcock

July 14, 2013



金融暴政は今、すべての新しい情報を追いきれないほどの大変なスピードで崩れつつある。何千年も昔に、今我々が見ているすべての「何」と「いつ」と「なぜ」は予言されていた——地球上のあらゆる古代文化によって。

3時間物のロシアのTVスペシャル、1時間物のラジオショー、大胆な新しい論文記事などによって、デイヴィド・ウィルコックは、人間意識のこの長く予言されてきた転換の成就を探求する！

大胆な驚くべき臆測

物語を追っていた人々には、あのマヤ歴は、最初は大きな失望のように見えた。

2012年12月21日という最も重要な日には、何も起こった様子がなかった——この歴史の特定の時日に関する大そうに響く予言が、30以上もの古代文化に現れているにもかかわらず。

私はこの物語の鍵となる幾つかのポイントを、無料の[OMタイムズ記事](#)や、[この記事](#)にリンクされている[1時間物のラジオ番組](#)（以下、下線はリンク）で概観している。

2012年12月に私に起こった最も大きなことは、最大手のロシアTVネットワークに2度出演したことだった。

これらのインタビューは、やがてREN-TVの6時間物のプライムタイム・ドキュメンタリー映画に現れた。これはすべて私の画期的なeブック [Financial Tyranny](#) に依拠して構成されたものである。

これらのドキュメンタリーは、2013年1月16日と30日に放映され、ロシアの視聴者を驚愕させた。真理がそこにあった——プライムタイムのテレビ番組として。

現在、3時間シリーズの結論部分を、完全な英語字幕付きで見ることができ、人類史上最大の隠蔽の蓋が吹き飛ばされている。

偶然の一致か？

[ドイツが連邦準備銀行から、かなりの量の彼らの金を返してくれるように要求したのは、](#)

2013年1月16日、このドキュメンタリーの最初の部分が放映された、まさに同じ日であった。

これは単なる偶然だろうか？ それともそれは「体制」——世界の金は言うに及ばず、メディアのコントロール——に対する、あからさまな政治的な動きだったのだろうか？

6カ月たった現在、隠された真実があまりにも急速に暴かれつつあり、私たちのチームは、すべての新しい情報を突き止め、記録し、保管するだけで、日に何時間もかかっている。

物語は文字通り一日ごとに進展している。いつこれを区切って書くべきか判断するのが難しい。新しい情報が次々に入ってきて、歩調を合わせるのが困難なのだ。

怠けている暇はない。事態の進展が速すぎて一日の休暇も取ることができない。

貴重で驚嘆すべき新しい情報が、狂った津波のように押し寄せては引いて行く——岩にあたっては砕け、これを繰り返している。

新しい情報が表面に現れたときに捕まえないと、すぐにそれは新しい波の下に見えなくなることもある。

川岸につかまって

それでも何とか川岸につかまって、手を離さないように必死に頑張ることもできる。

だがやはり、思いがけず手を離してしまい、荒々しく恐ろしく、かつ勇壮なディスクロージャーの“白波乗り”に巻き込まれることもある。

とはいえ、我々が予期した通りに、ディスクロージャーは今起こりつつある。

それがひとたび始まったら、どうなるだろうと考えてみた人があるなら、**今起こっているのがそれだ。**

今見てわかるように、それは一つの、すべてが同時に起こり明瞭な瞬間に集約されるようなものではない。

我々のすべてが、世界が突然、永遠に変わってしまうような、たった一つの流線形のわか

りやすい物語とともに目覚めるわけではない。

これは、平均的な人が、最も基本的なレベルで知っており、考え、信じていることの、巨大で組織的な、全面的変化である。

それは、我々が知っている文明の基本的なあり方を完全に“一からやり直す”、そしてはるかにより幸福なより健康な世界を建設する、興奮に満ちた機会なのである。

本当の物語は、いま我々が目にしているものよりはるかに大きい

我々から隠され、極秘にされてきた情報の量はあまりにも莫大で、その基本を理解するだけでも文字通り何年も要するだろう。

一体全体、何が起きているのかを本当に知っている人は、いたとしても、この地上に数千人くらいかもしれない。

我々の大多数がこの世界に接近できる手段は、せいぜいのところ我々の想像力であって、それは、真実を組織的にリークし——かつ歪めている——いろんなサイエンス・フィクションやテレビ番組を、我々が見ることによってである。

極秘のプログラム自体の中でさえ、非常に多くの区分けがあるから、秘密保持の許可をもつごくわずかの職員でも、「全体像」を知ることはまれである。

私は少なくとも4人の、「全体像」を見ている——あるいは少なくともその大部分を見ている——主要なインサイダーとの、広範囲な個人的なアクセスをもっている。

彼らはそれぞれ、隠された情報の大部分が常識であるようなレベルで仕事をしており、その多くの区分けに通じた人たちである。

他のインサイダーたちが、この驚愕すべき光を放つ宝石の、鍵的な切り子面を暴露した。

この情報は信じられないほど貴重なものである——それは我々の世界をすっかり変えてしまう力をもつからだ。

安全保障の内部構造が暴露された——しかしそれが保護する秘密は未知のまま

N S A（合衆国安全保障局）は、このより大きなヒエラルキーの下位レベルのグループである。

監視というのは、その過程で時々わずかの食べ物にありつけるかもしれない類の、長い退屈な“ゴミ箱あさり”である。

監視は、豪華な王宮の外での警備ガードに似ている。

あなたはただそこに立って、耳を傾けつつけるだけだ。あらゆる人間を監視せよ、あらゆるものを疑え、何も、誰も信用するな・・・ただヒエラルキーを除いて。

使者が面会に来る、情報を伝えよ、するとそれは中で働いている誰か他の者に伝わる、帰宅して寝よ、起きてもう一度同じことをやれ。

確かに時にはあなたは、すばらしい御馳走を振舞われることもあるが、**あなたは宮殿の中で何が行われているかを、ほとんど、あるいは全く知らない。**

あなたの仕事は単に、王様に対する脅威が何であるかを突き止め、これを除くことだ。あなたはただ、仕事をする上で必要なことを知らされるだけだ。

現在、この広範囲で分けられた秘密の世界を保護する安全保障の内部構造が、**初めて、**広く一般に開示されつつある。

しかし“王宮の内部”で進行していることの秘密が、**大衆レベルで突き止められ吟味されるようになったとは、到底言えない。**

ディスクロージャーのパターンがこれで明らかになった

ディスクロージャーの取るであろうパターンがこれで明らかになった。

あなたは、すでに起こったことからの類推によって、これがどんな方向を取るかがかなりよく判断できる。

“新しい”情報が出てくる。すると一般大衆は、真理はすでにそこに、評価されるべく待っていたことを理解する。

“新しい”警告家が出てくる。すると一般大衆は、多くの他の警告家が何年も前に、命の危険を冒して同じことを言っていた——そして無視された——ことを理解する。

人間が真理に対して“防衛メカニズム”の兵器庫を活用すること——**メッセンジャーを攻撃する**という古くから好まれた方法も含めて——は自然なことである。

あなたが完全にこういったことに経験がなければ別だが、たいていの人はこうした冷笑的な、小馬鹿にする攻撃を受けたことがあるだろう。何度もあるだろう。

今あなたはついに、現在速やかに常識化しつつあることを、すでに知って論じていたあなた自身が正しかったことを、認められつつある。

あなたが正しかったことの証明は始まったばかりである。2013年は実際、“だからそう言ったでしょう”と言える年であり、まだこの年は半分しか過ぎていない。

NSA ディスクロージャーは孤立した出来事の一部ではない

過去2カ月の私の仕事の主な焦点は、驚愕すべき一連のデータを統合して、いかに組織的で統制された努力が背後にあって、真理が明らかにされたかを示すことであった。

これらの“リーク”はランダムに起こったものではない。恣意的なものではない。非常に強力で集中的な、統制された努力がひそかに重ねられて真理が開示された——恐るべき精密さで。

このディスクロージャーは、陰謀団/新世界秩序/連邦準備銀行/イルミナティ/悪い奴ら——彼らは合衆国、連合王国、西ヨーロッパに集中している——によって統制されているのではない。

“真理メディア”を読む多くの人々は、彼らの読むあらゆるニュース記事を信用しながらないが、[エドワード]スノーデンが“泳がされている敵方”でないことは全く明らかである。

スノーデンがロシアに落ち着き、まだそこにいることは面白いことではないか？——我々が前の記事で明らかにしたこと、すなわちロシアが陰謀団を打ち負かす国際的同盟の、地政学的中心であることを考えるならば。

この時が、画期的な6時間物のロシアによる「金融暴政」暴露の第2部をリリースする最上の時だと思われた——これは、私がここに2012年1月に無料で公開した大部なeブックを土台にしたものである。

スノーデンがNSA機密を洩らしたことを明らかにした前日、私たちは、「陰謀団」が1776年に“バヴァリア・イルミナティ”として出発して以来、ロシアがそれを敗退させるためにずっと努力してきたことを公表した。

「陰謀団」のすべての分派が秘密主義を必要とした

我々は陰謀団の仕組む“問題/反応/解決”のゲームの中にはいない。このゲームによって彼らは“問題”を創り出し、それから我々の自由をもっと多く奪うような“解決”を提案するのである。

この時点で陰謀団には、少なくとも3つの、大きな、衝突している分派があるが、彼らすべてが合意している一点は**秘密主義**である——「同盟」もそこは同じだが。

一般大衆の大多数がこの真理を発見するやいなや、陰謀団はもはや支配力を維持することはできなくなる。分派のどの一つもそれはできない。それほど問題は簡単だ。

大衆はコントロールするにはあまりにも強い——ひとたび彼らが、どれほど自分たちが騙され、スパイされ、操作されていたかを知ったときには。

無知、迷信、恐怖、それに不信仰が、このゲームをやっていくためには絶対に必要なのである。

まさにその理由で、今その崩壊が目前で起こりつつあるのは、驚愕すべきことであり、深い満足を与える。

すぐれた、胸の高鳴るような映画が、今我々の生きている時代について、今後何年にもわたって制作されることであろう。

あなたはまだ何も見ていない

ほんの3カ月前ならば、冷笑的な反撃、冷たい沈黙、現システムの追従的弁護、あるいは

突然の話題転換を、きっと招いたであろうような話題について、私は今ごく“普通の人”と公然と話をすることができる。

私たちがあまりにも長い間、感謝することもなく受け継いできた「叡智の教え」を、いま地上のあらゆる人々が分け合うようになった。

更に言えば、もしあなたが“新しい情報”はほとんどもう出尽くして、人生はこのまま続くだけだと思っているなら、私はこう言うことができる——**あなたはまだ何も見ていない、**と。

これらの出来事が生み出すさまざまな変化は、かろうじて始まったばかりである。これは最も戦いなれた、すれっからの冷笑家や懐疑家にさえ、ショックと驚きを与えるだろう。

有難いことに、私たちがここから得るものは、暗い運命、恐怖、破局、自由の喪失、といったことではない。

それはその正反対のものである。

端役に過ぎない

NSAは、NRO（米国家偵察局）、海軍情報部、空軍情報部、その他多くのUFO隠蔽の背後にあるグループのような組織と比べれば、ほんの端役に過ぎない。

しかし、ほとんど、とは言わないが、多くの、これらの組織の職員や指導者たちは、反社会精神病患者ではない。彼らは、我々に真理を語りたがっている——そして世界を改良したがつている——愛国主義者たちである。

秘密主義は、これら職員のほとんどが——家族と過ごす毎日の家庭生活においてさえ——手放したがつている重荷である。

私は、あるポジティブな国際的同盟が、この新しい情報の増え続けるディスクロージャー（開示）の指揮を、陰で取っているものと信じている。

この同盟のメンバーのある者は、いまだに各情報部自体の内部でも仕事をしている——生命の恐怖から深く隠れて。

ディスクロージャーは無理のない限り速やかに進行している

彼らはまた、我々を卒倒させることがないように、可能な限り速やかに新しいリークを発表していると私は考えている。

大衆は新しい一つひとつの情報を消化するのに時間を必要とする。そして今、大盤振舞が進行中で、そこから選ぶべき魅力的な新しい項目が何百とある。

物語は一日ごとにますます奇怪なものになっていく。ほんの2カ月前でさえ、信じられないように思えた物事が、今、当然とは言えないとしても、十分あり得ることに思える。

今のところはまだ“馬鹿げた”ことに思えるが、1, 2カ月もすれば常識になってしまうかもしれない何ものかの、ある“小さな”例を吟味してみよう。

これは、もしそれが本当であると分かれば、人々を完全に怒らせてしまうであろう一つの例である。

私たちは今、こういった類の開示をもっと多く必要としている——信じられないほどの否定を打ち破り、真理を理解するためには。

遠隔操作自動車：2008年以降アメリカで法的義務？

もし、過去5年間にアメリカで発売された新車——2008年以降のすべての製品とモデル——が、あるインサイダー・グループによって遠隔操作することができるようになっているとしたら、どうだろう？

このシステムが、ドライバーの行動を彼らが完全に掌握できるように、考案されたものだとしたら、どうだろう？

すべての自動車メーカーが、ある秘密の、憲法に反する法律によって、一般大衆を“保護”するために、彼らの車にこのシステムを取りつける義務があるとしたら、どうだろうか？

これは、個人の財産の「不当な差し押さえ」を禁止する合衆国憲法第4修正項に、違反するのではないだろうか？

陰謀団は今、この規模の、明らかに違憲の行動をやっているテクノロジーをもっている

のだろうか？

彼らは黙って、GPSシステムや、小さなスマートフォン・サイズのリモコンカメラや、電力ステアリング、電力ブレーキ、アクセル・コントロールなどを、車に取り付けることができるのだろうか？

なぜ今、ほとんどの車が、ボタン式スターター・システムをもち、イグニッションにキーを差し込まなくてもいいようになっているのだろうか？

これらの車に始動の信号を送ることができるのだろうか——車内に“キー”を取りつけなくても？

誰かがこれらの自動システムを用いて、ハンドルを切る、アクセルを踏む、減速する、ブレーキをかける、そして彼らがどこへ行こうとしているかを監視する、といった遠隔操作をすることができるのだろうか？

もし、ある個人やグループがこの能力をもっているとしたら、彼らはどんなことができるだろうか？ もしこの事実が広く知られたとして、我々は彼らにその権限をもたせるべきだろうか？

“オンスター”はすでに一般常識になっている

我々は、“オンスター”(OnStar) サービスが、見えないグループに、乗用車に対する驚くほど幅広いコントロールを与えていることを、すでに知っている。

我々がそこから保護されていることになっている“悪い奴ら”は、すでにそのことを知っていて、彼らが現実に使うすべての車のその装置を不能にしているであろう。

<http://auto.howstuffworks.com/onstar.htm>

車の事故を起こすのは悪夢を見るようである。ひとたびそれが起こると、あなたはどうしてよいかわからず、ただオロオロするばかりだ。しかしもし、あなたの車がGM(ゼネラル・モーターズ)のオンスター・サービスに入っていれば、あなたは携帯電話を探す必要さえない。

このシステムがあなたに救いの手を差し伸べる。それは、あなたのeメールをチェッ

クシ、ホテルの予約をしてくれ、万一あなたがキーを車の中に閉じ込めた場合には、ロックを外してくれる。これらはサービスの一例に過ぎない。

オンスターは、北米で利用できる最もよく知られた遠隔サービスである。2005年5月の時点で顧客は4百万人を超えている。

しかし遠隔サービスとは何か？ オンスターはどのようにあなたの居場所を知るのか？ あなたの車は、どのようにあなたが事故を起こしたことを、オンスター・コールセンターに知らせることができるのか？

この記事で私たちは、オンスターの背後にあるテクノロジーを探り、それをどう利用すべきか、またこれに関係する論争のいくつかを考えてみる。

2007年以來すべてのGM車に設置されていると公然と認められたオンスター

GM社は2007年以來、彼らの車のすべてが、広範囲なりモコン自動システムを——オンスター社を通じて——インストールしていることを認めている。

<http://cartech.about.com/od/Safety/a/Gms-Onstar-Service-How-Does-It-Work.htm>

オンスターはすべての新しいGM車に含まれており、いくつかの非GM車にもそれが含まれている。

これらのシステムは、2002年から2005年の間に作られた日本とヨーロッパの車のあるものにも見出される。

アキュラ、イスズ、スバルは、この取引に参加していた日本の自動車メーカーであり、アウディもフォルクスワーゲンも同様に参加していた。

もし2007モデル・イヤーの間またはその後に作られたGM車を買うと、それにもオンスター社との契約が含まれているかもしれない。

2007モデル・イヤー後は、すべてのGM車にこの契約がついてくる。

オンスターができるすべてとは何か？

オンスター社との“契約”は、本当は正しい用語でないかもしれない——それはあなたの希望に関係なく、あなたの車にインストールされた広範囲で十分に自動化されたリモコン・システムなのだから。

パワー・ステアリングは、あなたがハンドルを切るときに行くように命ずる方向に、タイヤを押しやるコンピューター化された電気モーターを使用している。

一体、これらのモーターは、あなたがコントロールできないほどにハンドルを動かすほど、強力なのであろうか？

なぜ、アキュラ、イスズ、スバル、アウディ、フォルクスワーゲンは、こぞって、2005年以來(?)、彼らの車のセールスポイントとして、このシステムを公的に用いることを撤回したのだろうか？

トップ重役はこれを用いつづけるように強制されたのか？

これらのシステムは、これらさまざまな車メーカーが、2005年にその取り付けを公的に中止した後も、依然としてインストールされていたのだろうか？

彼らはこれを洩らさないように要求されたのだろうか？ これらの会社のトップ重役たちは、もしこれに抵抗しようとする、脅迫または殺されたのだろうか？

彼らは、もしこのような陰険な話が万が一、主流メディアに洩れたときには、こぞって自己弁護し、自分たちは強制されていたのだと言うつもりだろうか？

自動車の組み立てラインは、今は、ほとんどロボット工学によって自動化されているから、工場で働く人たちのほとんどは、そのようなシステムが電子装置に隠れていることに気がつきもしないであろう。

例えば、バックミラーに微小なカメラを取り付ければ、それにアクセスをもつグループにスカイプを通じて、道路のリアルタイムの光景を送ることができるのではなかろうか？

特定の問題に分け入ってみよう

別の引用文を見ることにしよう。これは我々がオンスター・システムについて、すでにどれだけ知っているかを公然と明らかにしている。

http://cartech.about.com/od/Safety/a/Gms-Onstar-Service-How-Does-It-Work_2.htm

(数十行省略)

明らかなプライバシー問題

次の抜き書きは、このテクノロジーについて——私たちが今見ているすべてのNSA暴露の**前に**——すでに深刻なプライバシー問題があったことを明らかにしている。

覚えておくべきことは、小さなカメラを車のキャビン内部に備え付けることも可能で、これによってドライバーと客をリアルタイムで監視することができることである。

http://cartech.about.com/od/Safety/a/Gms-Onstar-Service-How-Does-It-Work_2.htm

オンスターはあなたのドライブの習慣について多くのデータを知っており、プライバシー問題について懸念を表明している人たちがいる。

FBIは、個人的な会話を盗聴するために、このシステムを利用しようときえしている。しかし第9巡回訴訟裁判所は、彼らがその能力をもっていることを否定した。

オンスターにはまた、オペレーターが入って来る電話を取り次いだときに、明らかなノイズを出して、不正なオペレーターが盗み聞きできないようなサービスもある。

[DW: 彼らはまた、パイパス・スイッチをインストールして——あるグループがそれを傍受したいときには——入って来る電話の「明らかなノイズ」を不能にすることもできるだろう。]

オンスターはまた、**第三者にこれを売り渡す前に、GPSデータを匿名化すると主張している**。しかしプライバシー問題はそのまま残る。

そのデータは直接あなたの名前や、あなたの車やトラックの自動車登録番号と結び付けられないとしても、GPSデータはその性質上、匿名ではない。

GMはまた、うわさによれば、あなたがオンスター契約をキャンセルした後も、このデータを追跡していると言われる——データ連結を完全に切断することは可能だが。

彼らはいかにこれに対処するつもりか？

「2008年以降にアメリカで売られたすべての車は、遠隔操作を受ける法的な義務がある」などという“狂った”考えが、警告家によって公的に暴露されたと想像してみよう。

(それが現実に起こるかどうかわからない。この時点でそれは仮説的な問題にすぎない。しかしインサイダーの一部は、それが起こるかもしれないと示唆している。)

公式の反応はどのようなものになるだろうか？ 彼らは、この遠隔操作システムは、犯罪者や麻薬取引業者やテロリストを食い止めるために使われるだけだ、と言うだろうか？

これらのシステムはまた、狙った暗殺のために使われることもあるだろうか？——車を途轍もなく加速させ、コントロールを不能にし、ドライバーを中に閉じ込めたまま立木に衝突させるなどして。

権力グループはそこで、大きなニュース・ストーリーを追いかけるジャーナリストのような、彼らを脅かす人々を、「消す」ためにこれを用いるだろうか？

どれだけのドライバーが、瞬時に閃いて何が起きているかを理解し、窓を破るのに手頃な道具を見つけ、衝突前に外へ飛び出すことを考えるだろうか？

もしこれが公的に知られたときには、我々の“リーダーたち”を信頼して、我々の同意なしに、我々の車を完全にコントロールし、遠隔操作していただいてよいのだろうか？

「私は何も隠していない」という議論が、この点においてどこまで信用できるだろうか？

これらのシステムは誤用されているのか？

彼らの秘密を必死に守ろうとし、警告家に対しては彼らの共同の利益を弁護しようとする、インサイダーの陰謀団があると言っておこう。

ごく最近まで、西洋社会の大多数の人々は、これほどに巨大で醜悪なものが本当のことであろうとは、信じられなかったかもしれない。しかしそれは今、すべて変わりつつある。

オンスターのようなリモコン・システムが、火災を伴うハイスピード自動車事故で死んだ

ジャーナリスト、Michael Hastings の死をもたらしたのかもしれない。

http://www.huffingtonpost.com/2013/06/24/michael-hastings-car-hacked_n_3492339.html

(事故の様子の説明、数行略)

ヘイスティングズは何を書いていたか？

この抜き書きが続けて言うように、ヘイスティングズはすでに、実在する権力構造を転覆しようと非常に効果的に働いていたことが分かる。

ヘイスティングズは強力な人々を怒らせるような、無制限に思いのままの記事を書いていた。

彼が 2010 年に書いた、Stanley McChrystal 将軍の「ローリング・ストーン」誌に発表されたプロフィールは、あまりにも破壊力が大きく、バラク・オバマ大統領はこの将軍を解雇せざるをえなくなったようだ（大統領は、この記事が彼の決定に影響を与えたことを否定している）。

彼が死ぬ前の何日かの間、ヘイスティングズは、「ロサンゼルス・タイムズ」によると、David Petraeus 将軍を失脚させたスキャンダルに巻き込まれたジム・ケリーの訴訟について、ストーリーを書いていたと言われる。

K T L A の報じたところによると、ヘイスティングズは、ニュースサイト BuzzFeed で、F B I が彼の身边を調査しているようだと同僚に語っていたようだ。

6 月 20 日、F B I は、いかなる調査も行われてはいなかったと、これを否定した。

ヘイスティングズが大きなプレッシャーを感じていて、酔ったあげくに無茶な運転をした、ということもあり得る。彼が暗殺されたということもあり得る。

この炎上衝突は、ヘイスティングズに真相のばらしをやめさせ、他のジャーナリストへの見せしめのためにも、意図された出来事だったのだろうか？

主流メディアによる新しい情報のリークが、ヘイスティングズの死後 2 週間ほど、ペースダウンしたことは確かである——それはやがて再び元へ戻ったが。

しかし、このような明らかにマフィア式の“殺し”が公然と行われても、ディスクロージャーの雪崩現象は止めることができない。

長年にわたって真理を明らかにする努力をしてきて、今やとすべてが明るみになるようになったことに、私は肩の荷が下りた思いがしている——今現れつつあるすべての新しい情報についていこうとするのは、信じられないほどの量の仕事になるが。

マイケル・ヘイスティングズは車の遠隔操作で暗殺されたのか？

次の抜き書きは、このジャーナリストの火だるまの死が、意図されたものであった可能性を明らかにしている。彼は死の直前まで、非常に重要な論文を書き続けていたのである。

ウィキリークスは、彼が死の直前に彼らと接触していたと言っている。

<http://blogs.telegraph.co.uk/news/timstanley/100222652/wikileaks-says-michael-hastings-contacted-it-just-before-his-death-are-they-implying-he-was-murdered>

ウィキリークスは、陰謀論の火にガソリンをぶっかけた。水曜の夜、彼らはツイッターで言っている：「マイケル・ヘイスティングズは死の数時間前に、ウィキリークスの弁護士 Jennifer Robinson と接触し、F B I が彼の身边を調査していると言った」…

そしてヘイスティングズの最後の論文は、NSA（米国家安全保障局）の悪についてであり、それは「おそらくもっと多くの情報がやがて現れるだろう」という、じらすような言葉で終わっている。Glenn Greenwald は、ヘイスティングズの死後、ツイッターにこの論文へのリンクを設けた。

ヘイスティングはFBIに調査されていると言った

<http://losangeles.cbslocal.com/2013/06/19/wikileaks-hastings-said-he-was-being-investigated-by-fbi/>

CULVER CITY (CBSLA.com)——マイケル・ヘイスティングズの火曜日の死に続いて、この賞を得ているジャーナリストが、政府が彼を監視しているとウィキリークスに語ったと報じられて以来、疑問は消えないままだ。

ウィキリークスは水曜日、その何百万という同調者にツイッターでメッセージを送り、この33歳の著術家・戦争特派員が、この組織の弁護士と接触し、彼がFBIに監視されていると語っていたことを伝えた…

警察は、殺された人物がヘイスティングズかどうかをまだ確認していない——死体が識別不能なほど焼けているということらしい。

カメラに向かって話すのを拒否したある友人は、ヘイスティングズはFBIの監視をひどく怖れていたが、彼の死をめぐる陰謀説は早計のように思うと語った。

警告家は車の“ハッキング”が可能なことを明らかにしている

年配の高位の警告家 Richard Clarke は、ハフィントン・ポスト誌上で、インサイダーの知識に基づいて、車を遠隔操作する方法があることを明らかにしている。

もし行間を読むならば、クラークはこのシステムについて、声明で公的に明らかにした以上のことを知っているようだ。

インサイダー、リチャード・クラークによれば車は遠隔操作が可能

http://www.huffingtonpost.com/2013/06/24/michael-hastings-car-hacked_n_3492339.html

先週ロサンゼルスでの、ジャーナリスト、マイケル・ヘイスティングズの死の特異な状況は、陰謀説の波を引き起こした。

ところで、恐怖を増幅するようなもう一つの説がある。あるすぐれた安全保障アナリストによれば、車をハッキングすることを可能にするテクノロジーがある。

元アメリカ安全保障・インフラストラクチャー保全・対テロリズム国家責任者のリチャード・クラークは、「ハフィントン・ポスト」に対し、**単独車の衝突事故については「カー・サイバー攻撃の可能性を排除できない」と語った。**

クラークいわく、「合衆国を含めて、強大国の情報局は、遠隔操作によって車をコントロールする技術をもっていると信ずべき十分な理由があります。

「幾つかの大学での研究の結果として分かってきたことは、1台の車のコントロール・システムの内部へ“ハック”侵入し、ドライバーが望まないときに加速させたり、ドライバーが望まないときにブレーキをかけたり、エアバッグを作動させるといったことは、比較的簡単だということです。

「現在、車をハックすることによって、何らかの高度に破壊的なことを行うことが可能で、それはさほど難しいことでもありません。

「だから、この車にサイバー攻撃があったとしたら——私はあったとは言っていません——誰にせよ、それをやった者は、おそらく捕まることはないと思います。」

これを聞いてあなたはどう感ずるか？

もしあなたがこれを読みながら、突然、疲れや無力感や嫌悪感、また怒りや恐怖を覚えるだけならば、それは陰謀団の操り人形師のまさに思うツボである。

しかし戦争においては、あなたが同じ場所から一度以上発砲すれば、あなたは敵に居場所を教えることになる。あなたは今見つかっている。

もし陰謀団が、このような武器を使って攻撃するつもりなら、よほどうまく狙わないと駄目だろう——彼らは実は、一度しかそれを使う機会がないのだから。

車の遠隔操作は、陰謀団があまりしばしば使うことのできないシステムであろう——それは嫌疑を広めるだけで、手口は見え見えとなる。

その時点で、大衆にそれを信じさせないようにする唯一の方法は、そのような途方もない、身の毛のよだつ陰謀が実際に存在することを見せつけることによって生ずる、情緒的トラウマであろう。

現在、たった一回のこのシステムの顕著な使用が、インサイダーの間に破壊的な反乱を引き起こしている。高位の警告家たちが前面に出て、彼らの知っていることの一部を暴露しているのだ。

したがって、この明らかな暗殺は、エリート内部の正真正銘の絶望の、もう一つの兆候と考えられる。

彼らは、何千というジャーナリストの中の一人を倒すために、長い間秘密にされてきた武器を誇示したかったのかもしれない。

明らかに彼らは、言い訳を弄して、刑を軽くしてもらうなどということに全く興味はない。彼らはあくまで堂々とやり、最後まで戦い抜こうとしている。

歴史はいま作られつつある——たった今、きょう。感謝すべきことに、陰謀団を追い詰めている一つの「同盟」がある。我々は彼らについてもまた、いま学びつつある。

金融暴政についての画期的なロシアのドキュメンタリー、第2部

今やっと私たちは、ロシアのテレビ・シリーズ第2部——すべての秘密の中で最大の秘密に警鐘を鳴らすもの——をリリースすべき時が来たように思う。

何百年もの間、“新世界秩序”建設を目指して組織的に動いてきた、秘密主義の、オカルト信仰をもつインサイダーたちの、一つの陰謀団が**現実**に存在する。

世界とその資源を統制下におこうとする彼らの計画は、きわめて包括的である。それは一見して信じられないほどだが、それにもかかわらず、非常に現実的である。

ちょっと想像してみよう——ある中世の王国が、彼らに反対するどんな国の騎士たちのどんな馬も“ハック”することができ、リモート・コントロールによって、その馬たちに乗り手を殺させるように仕掛けたとしたら、どうだろう。

あなたは、マーリンのような、魔法をかけて戦闘馬を狂わせる力をもった魔法使いの登場する映画の、すばらしい幻想的シーンを書くことができるだろう。

これは、コンピューター、極小カメラ、3Gコネクション、携帯電話のビデオ・テクノロジーや、現代の自動車が「陰謀団」に与えることのできる、恐るべき力に相当するものである。

この物語は、それよりもっと深い所に達している——今この時点で浮上しつつある他のどんな唾然とするような物語よりも。

それは実に古代からの陰謀なのであり、それが今、すっかり解体されつつあるのだ——

歩、また一歩と。

このドキュメンタリーを自分の目でご覧下さい

http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=mmSqfr2l3HY

このすべての背後にある「同盟」についてもう少し

この3時間物のドキュメンタリーは、もしNeil Keenanが2011年11月に「陰謀団」を相手取って訴訟を起こさなかったら、おそらく生まれることはなかったと思われる。

私はこの物語を取材した最初のジャーナリストの一人であり、この新しい情報に基づいて一冊の本を書いた唯一のジャーナリストである。

Financial Tyranny が書かれたのは、「同盟」が私のところへ——ニール・キーナンを通じて——何百枚もの写真や文書を回して寄こすようになってから後のことである。

彼ら自身の安全のために、秘密にしておくように頼まれた多くの細目があり、私はそのようにしている。

しかし、“コントロールされた敵方”からの死の脅迫や名誉棄損が激しくなった現在、さらに多くの情報が提供され続けている。

Michael Henry Dunnは、ある意味で私以上に、このことすべてに接触している。彼はインドネシアに渡って、ニールや彼のインサイダーのこの闘争の、最前線にいたからである。

ダンは今、「同盟」のために定期的にアップデートを書いており、これをJean Hainesのウェブサイトに掲載し続けている。

殺すという脅迫がこの間を通じてずっと続き、今、結果としてより多くの情報が現れつつある。

マイケル・ダンが、ニール・キーナンへの最新の暗殺脅迫を語る

この論文には証明できることは何もない——少なくともこの時点で公的に証明できることはない——が、それは、私がこれまでずっと分かっていた、しかし前には読者に知らせる

立場になかった、いくつかの鍵となる細目を確認するものである。

不幸なことに、この物語は、キーナンと彼の同志を殺そうとする、もう一つのおぞましい試みから始まる。感謝すべきことにこの試みは失敗した——他のいくつかのように。

私はこれが作られた話だとは全く思っていない。賭けられたものはきわめて現実的で、すでに多くの人々が死んでいる。

ジャカルタでの、キーナンのチームに対する暗殺未遂

<http://jhaines6.wordpress.com/2013/07/10/neil-keenan-update-assassination-at-tempt-on-keenans-team-in-jakarta-and-smear-by-phony-whistleblower-david-crayford-is-exposed-by-michael-henry-dunn/>

ニール・キーナンのチームが先週、暗殺未遂の標的となった。

筆者（ダン）が前に入っていたホテルのスイートルームが夜中に乱入され、メイン・タンクのガスバルブの栓がゆるめられ、そのため供給ガス全体がアパートに充満した。

Inchul Kim と我々の同僚 Jo は、危うく中毒死するか爆破されるところを、インチョルのタイムリーな行動で救われた。

彼は夜中に目を覚まし、圧倒的なガスの臭いを感じ、破壊の跡を見つけ、危険を覺つて注意深く窓をあけ、アパートのガスを外へ逃した。

少しのスパークがあれば、すべての部屋が吹っ飛ぶのに十分で、キム氏とジョーのみならず、確実にキーナン氏も死んだことであろう。

ニール・キーナンは最近のビデオ・アップデートで、これについてジョークを飛ばしているが、これは危険を軽く見るキーナンの性格によるものだ。

しかし彼にとってそれは冗談ではない。彼自身と彼の友人たちの生命が、ジャカルタでは多くの敵から狙われている。しかしそれは、真の警告家につきまとうリスクだ。

OITC スポークスマンからの攻撃が、更なるディスクロージャーにつながる

ダンのアップデートが続けて言っているように、O I T C（国際財務管理機構）のスポークスマンからの、攻撃の新しいラウンドに対する防衛があったことが分かる。

この組織は、連邦準備銀行によって盗まれた金（きん）を元に作られた“Global Collateral Accounts”の巨大な基金を操作しているグループの一つである。

これらの“グローバル担保預金”は、それ自体の経済システムによって“第2のマーケット”を形成し、ドルは、我々のオープンな世界マーケットにおけるより、はるかに大きな価値をもつ。

David Crayford は、いわゆるO I T C（Office of International Treasury Control）のスポークスマンを自任している男だが、これは国連との提携を主張する詐欺的組織で、現在、インチキの外交免除特権を1件2万ドルで売っている。

告発：「キーナンは、2010年日付の論文で、Keith B. Alexander 将軍と Myers 将軍が完全に彼と協力して、“担保預金”と彼の違法で犯罪的な行為にかかわっていること、そしてアレクサンダーとマイヤーズが決定権をもっていることを言明している。」

事実：クレイフォードは、引用している論文へのリンクを提供していない。また彼は、キーナン氏による言明とされているものの、コンテキストを示していない。またキーナン氏の言葉に引用符もつけていない。

クレイフォードはニール・キーナンを非難し、「違法で犯罪的な」行為があったと言っているが、それがどんな行為であったのか、どんな（どの国の）法が破られたのかは言っておらず、こうした告訴を裏付ける証拠を提出していない。

これらは、法廷で問責されるべき中傷であり告訴可能な言動だ。

キーナンはインサイダー世界に、多くの有用で愛国的な接点をもっている

キーナンが、アレクサンダー将軍やマイヤーズ将軍と関係をもっていたと言われていたことについて事実を言えば、ニール・キーナンは、軍やさまざまな情報局に多くの接点をもっており、これらは彼の仕事を進める上で非常に役に立ったものだ。

誰でも、告訴とかグローバルな金融の変動の話を追跡する者なら、よく承知しているはずだが、分派の中の分派、ウェブの中のウェブ、謀略の中の謀略というものがあり、

このようなネットワークの話になると、どこに足を踏み入れても危険なのである。

クレイフォード氏はこの場合、間違った将軍の名をあげており（キーナンが知っていたマイヤーズ将軍とは、その後死亡したジャック・マイヤーズのことだった）、モナコ会議の事実を完全に間違って述べているので、彼の正しい情報と称するものが、かなりのマユツバものであるのは明らかだ。

告発：2011年末の、キーナンとスイス政府によって組織された「モナコ合意」に関する論文で、キース・B・アレクサンダー将軍とマイヤーズ将軍が出席していたことが、はっきり述べられていた。

読者が覚えておられるなら、この会議はモナコで行われ、ジェイ・ロックフェラーが闖入してモナコの会場が使えなくなったため、地中海に停泊していたアメリカ軍艦へ場所が移された。

事実：またしても、クレイフォードの「事実」は虚偽である。この会議は確かにスイスの官僚の援助によって組織されたものだが、それは160フィートのヨット上で行われたもので、アメリカ軍艦ではない。

「モナコ合意」会議の全体的目的は、**非同盟の国家群（特にアジア諸国）を、西洋の寡頭政治による圧政と支配から解放してやること**だった。このような会議が、アメリカ軍艦上でなされるなどということはあり得ないことだ。

この会議のうわさが、その寡頭政治の最高位を占めるアメリカの一族、ロックフェラー一家に届き、彼らは上院議員ジェイ・ロックフェラーを、招かれざる客としてパーティに“闖入”（crash）させようとして派遣したのだった。

彼は船に乗ろうとして、ニール・キーナンによって物理的に阻止された。彼が「私が誰か知らないのか？」と詰問すると、キーナンは答えた、「知っています。あなたは我々がこの船に乗ってほしくないズバリその人です。」

ロックフェラーがぶしつけに乗船拒否された後、このヨットは今度は、ブラックホーク・ヘリコプターによって騒音攻撃されたが、やがてフランスの戦闘ジェット機がその上を警告飛行すると、ヘリコプターは退散した。

「モナコ合意」は、それに続く BRICS 同盟結成に基盤を与えることになり、きわめ

て重要な出来事となった（もっともこの同盟は、“抵当預金”へのアクセスをもたないから、EUの轍を踏むだけになりそうだが）。

現職の米国上院議員であるジェイ・ロックフェラーが、米軍艦に乗船拒否されることはなかったろうし、この非同盟国の財政担当大臣らの、きわめて敏感な、秘密の会議が、米軍艦上で行われることもありえない。

このすべては、いま結実しつつあるより大きな宇宙的計画の一部である

マイケル（ダン）と私は、BRICS同盟の価値や意義について、完全に一致はできないかもしれない。それとも言葉遣いの誤解があるだけかもしれない。

私は、この反対グループは非常に重要であり、人類の最上の利害を考えており、究極的により公平な、よりよい制度を創り出す力になることができると心から信じている。

そう言った上で私は、この物語全体が心理的に圧倒的な力をもつものと理解する。

スノーデンの場合と同じく、人々は、物語の潜在的な正当性を考えてみるよりも、ニール・キーンランを憎むということは大いにあり得る。

（私の）Financial Tyranny に発表されたものだけでも、連邦準備銀行の証書、証書の箱や櫃と言われるものすべての写真を撮るだけで、**少なくとも何十万ドルの金がかかる**であろう。

また忘れてならないのは、多数の、独立した情報源が、同じように見える写真を発表したことである——Joseph Riad の訴状に付けられた写真や、イタリアのキアッソで押収された証書など。

真理はここにある——それがあなたの手には負えるか否かにかかわらず

したがって明らかに「陰謀団」は、第一次、第二次大戦を含む謀略的な出来事を通じて、金融システムの完全支配を手に入れるために、世界からその保有する金（きん）を、組織的に奪ったのである。

監視が行われて、これらの深く暗い秘密が露見しないように万全の措置が取られている。しかし今、すべてが明るみへと現れつつある。

この種の情報に遭遇するほとんどの人々は、彼らの日常生活の快適さを奪われないように、それを完全に否定し嘲笑する。

真理、少なくとも真理のほとんどは、常にそこに見えていた。心理学的な観点からすれば、真のテストは、**その真理があなたの手を負えるか否か**だったのである。

今、我々はついに、その真理が広く一般に知られる、危機的頂点に達しているのである——それがあなたの手を負えるか負えないかに関係なく。

このことは当然、心理学的に圧倒的な効果をもつ。

魂の暗夜

この真理は多くの人々を、鬱（うつ）、心配、恐怖症に追いやるだろう——いわゆる「魂の暗夜」である。

しかし「魂の暗夜」が物語の終わりではない——あなたがその中にいる間は完全にそのように思われよう。

地獄の錯覚は、それが「永遠」だということだ。

しかし地獄を通過する旅、すなわち「魂の暗夜」は、それよりはるかに偉大な“筋書き”の中の一つの出来事にすぎない。

素晴らしいことは、この筋書きがハッピーエンドになっていることである。それは保証された事実である。それは生きた宇宙の一つの確実な“ボーナス”である。

このハッピーエンドは現実には、銀河系、太陽、地球そのものの「心」の中に書き込まれている。

どんなに現実離れしたことに思えようと、これが現実的に真理だという有無を言わせぬ証拠がある。

この物語は我々がここへやってくる遥か前に書かれた

最も大きな驚きは——この時点でこれを本当に理解している人はごく少数だが——我々は今、我々がここにやってくる遥かに前に書かれた物語の、最も興奮させる“plot points”（物語の大きな転換点）の一つを生きているということである。

この物語は、すべての記録された歴史を通じて、何度も何度も繰り返されている。

地上の人間の現実の生活で、この壮大な物語に最も近く、最も正確な“再話”は、イエスの物語において起こった。

これは間違いなく、キリスト教とそこから派生した宗教が、3万近い異なったセクトをもつ、地上で最も優勢な宗教になった理由である。

他のすべての宗教とそのそれぞれのセクトを合わせても、1万ほどの宗教を加えるにすぎない——私が *The Source Field Investigations* で明らかにしたように。

これら 38,830 の——そのすべてが「真理」を宣言する権威を争っている——宗教宗派を結び付ける何らかの偉大な統一する力があるのだろうか？

聖書の強力な手掛かり

多くの古代文化とそれらの神話は、この隠れた知識の偉大な総体の、さまざまな要素を取って表現したものである。

この知識は、高度に進歩した人間のメッセンジャーたちによって彼らに与えられた。このメッセンジャーたちは、この地上に住むように進化はしなかったが、我々を訪問して、我々がもっと成長して霊的に進化するように助けたのである。

私は新著 *The Synchronicity Key* でも、イエスが我々に強力な手掛かりを残していることを明らかにしている。これが今日の新約聖書の中に生き残り、いかに彼がこの偉大な普遍的デザインを知っていたかを示している。

大量の証拠が旧約聖書にも同様に現れている——数字の手掛かりを完全に備えた「ダニエル書」に見られる驚くべき神秘はその一つだ。

この偉大なサイクルとそれがどう働くかを、突き止めて理解しない限り、これらの数値の手掛かりを完全に読み解くことはできない。

イエスは原型である

エドガー・ケーシーのリーディングは、「イエスは原型 (pattern) である」としばしば言っている。そして今、そう言ったとき、彼らは実は何を意味していたのかを、我々は解明できたように思える。

これは、我々一人ひとりが、文字通り十字架に釘打たれ、肉体の死を経験して、この時代においてアセンションを果たした「ライト-ボディ」(光体)となって、再び現れる、という意味ではない。

十字架と復活の物語は、我々すべてが——歴史のこの時期において——通過しなければならない、隠れた通過儀礼パターンの、非常に強力な、視覚的・情緒的な説得力をもつ形象化である。

今我々が世界に見ているような、驚くべく広範囲で侵略的な監視の暴露を伴った出来事は、普遍的な「すべては失われた」という歴史の一点を象徴する。それは十字架刑のような、地獄を通り抜ける旅である。

すべての映画は同じ映画だ

私は、すべてのハリウッド映画が——今日に至るまで——同じ“plot points” (話の大転換) のパターンで書かれているのを発見して、ひどく驚いた。

すべてのハリウッド映画の背後にある「構造」を説明するのは時間がかかる。しかし一度このパターンを知ると、それは全く理解しやすく明白になる。

(十数行略)

すべての映画は、主人公の目標が完全に絶望的になる“死のにおい”の瞬間をもたなければならない。このパターンは銀河系そのものの「心」の中に書き込まれている。

これらの「プロット・ポイント」はまた、歴史的出来事の動きの中でも生ずる——神話や映画や我々の個人生活の中だけでなく。

宇宙には大勢の人がいる

我々の銀河系の、生物の住むどんな惑星にも、何らかのヒトあるいはヒトに似た生命の変種が存在する。それは私の新しいTV番組、Wisdom Teachingsで徹底的に明らかにされている最も大きな秘密の一つである。

これは、恐ろしい悪なる“エイリアン”として、恐怖症的な、「陰謀団」が財政支援する、ハリウッド映画の地球外人とは大いに異なっている。

高位のインサイダーたちが私に話してくれたことだが、**我々が発見した人間で、我々の自身のDNA構造と4%以上の遺伝子差を示すものはない**という。

これはDNA——と、我々の知るような人間——が、銀河系のテンプレート（鋳型）であって、量子レベルにおいて宇宙そのものの基本的エネルギーに書き込まれているからである。

究極的に人間の生命は**エネルギー的**であって、生物学的ではない。生物としての形態は、我々の魂としての進化のカーブ全体の一つの相にすぎない。

これは、私の *The Source Field Investigations* の中で、査読された科学研究論文への広範囲な参照によって、十分に確認されたことである。

現在、Wisdom Teachingsにおいて、私はこうしたことすべてを、時間をかけてより詳しく説明している。

ひとたび我々が成長し、次のレベルの人間へと進化したときには、我々は銀河系へと進出し、他の惑星が同じ成長の苦痛を通り抜けるのを助けるようになる。

宇宙の起源は種子によく似ている

我々は生物に満ちた宇宙に住んでいる。その証拠は膨大で否定しようがない——ただ、これも一つには陰謀団による科学の抑圧によって、一般に知られてはいないが。

宇宙の起源は一つの種子に似たものだった。つまり木の完全な形が、可能態としてすでに包含されていたということである。

この“木”は、人間生命へと成長することになった——少なくとも我々の銀河系においては。そして「一者の法則」シリーズによれば、宇宙の他の銀河系すべての40%でそうなっ

ているらしい。

次のアップデートで私は、Wisdom Teachings の 15 分のクリップを載せようと思う。ここでは、この謎についての幾つかの非常に生々しい情報とともに、世界中に姿を現した人間 E T の訪問者を紹介する。

それが我々に与えようとする教訓を学ぶまで、我々は同じ台本を繰り返す

そればかりでなく、人の住むすべての世界は、人々が彼らのために書かれた教訓を学ぶまで、何度も繰り返し同じ“台本”を与えられることになる。

ある特定の惑星上で形成されるそれぞれの宗教は、この台本の何らかの異本であり、この物語が我々に教えようとするものの様々な側面を明らかにしている。

聖書がこの物語につけている名前の一つは、「生命の本」である。

新しい(私の)本では、歴史のサイクルの個別の議論にいきなり飛び込むのではなく、本の前半すべてを、この“物語”が意味するもの、そしてなぜ宇宙はこのように働くのかの基礎を固めることに費やしている。

ロゴスの神秘

私は、「一者の法則」シリーズが、そこに含まれる広範囲な、証明可能なデータのゆえに、現代世界の最も信頼できる、直観から得られた文書だと考えている。

このデータの多くは、このシリーズが 1981-83 年に書かれてからだいぶたつまで、実際の科学的研究によって立証することができなかった。

「一者の法則」シリーズは、イエスが、我々の銀河系の心と人格を、物理的に形象化したものであることを明らかにする、幾つかの重要な手掛かりを与えている。

「父」とは宇宙 (Cosmos) の心であり、「息子」とは銀河系の心だという考え方が、十分に成り立つ。

私はこれを、将来にはもっと広く知られるようになるかもしれない“宇宙的キリスト教”として考えている。

究極的には、我々のすべてが「ロゴス」である。イエスは、「一者の法則」の言葉で言えば、自分が誰であるかを十分に完全に覚えており——従ってそれを形象化することになった——先覚的教師であった。

「私はロゴスである」

「一者の法則」は我々の銀河系を“The Logos”と呼んでいる。新約聖書のギリシャ語原本では、イエスは一度ならず「私は the Logos である」と言っている。

今日、我々はこれを「私は言葉である」として読むが、これが本当に意味しているのは「物語そのものの言葉」ではなからうか？

この物語は、もう一度言うと「生命の本」——いわゆる「英雄の旅」である。

この物語の「原型」つまり「プロット・ポイント」は我々の夢に現れる——我々がその意味を意識的に理解しているか否かにかかわらず。

より高い魂のレベルでは、我々一人ひとりが「生命の本」のどのあたりにいるか、そして次の段階に達するには何を学ばねばならないかを知っている。

今この時、我々すべてが同時に、同じレッスンを通過しつつある。これが繰り返す歴史のサイクルの最も偉大な機能の一つである。

このサイクルとそれに応じて起こる出来事は、きっかり時間通りに起こる。本当の鍵は、我々自身の人生において、それらが創り出す経験に我々がどう対処するかを選ぶかである。

「ヨハネ 1:1」のより完全な説明

「ロゴス」についての議論は、きわめて重要な「ヨハネによる福音書」冒頭の謎のような言葉をも説明する——

初めにロゴスがあった。そしてロゴスは神とともにあった。ロゴスは神であった。(ヨハネ 1:1)

聖書が現実世界の出来事を論じていると信ずるとすれば、ヨハネは日常の立場で、イエス

に直接的で個人的なアクセスをしていたと考えられる。

これや他の言葉が、イエスが言ったことの直接のパラフレーズ（解明）であった可能性は大きい。

いろいろな会議で私は、この一見して神秘的な言葉は、実はロゴスとしての銀河系のことを言っており、宇宙全体がロゴスでもあると言っているのではないかと考えてきた。

誰もその当時“銀河系”が何であるかを知らず——勿論より進んだ存在たちは当然知っていただろうが——したがって、この知識はすべて比喩の形に隠されねばならなかった。

この言葉は、「ロゴス」は「一者」であり、神であるが、同時に「一者」と共にある、つまり「一者」の一部でもあると言っている。

それらは2つの、見たところ別々のもの——我々の銀河系と我々の宇宙——であるが、それらは究極的に同じ「心」から形成されている。

ロゴス、サブ・ロゴス、サブ・サブ・ロゴス（複）

「一者の法則」シリーズが“ロゴス”という言葉を使うとき、それはこのような厳密な言葉として使われる。究極的に「一人の無限の創造者」が「ロゴス」である。

我々の銀河系もまた「ロゴス」の心の完全な形象化である——ある程度それ自体の“人格”や“個性”をも保持してはいるが。

銀河系は星で出来ている。そのすべてはこの新しい科学モデルでは、生きものである。

一つ一つの星（恒星）が「サブ・ロゴス」である。（「一者の法則」が「サブ・ロゴス」を論じている部分すべてについては、ここをクリックせよ。）

惑星は、その内部で活動している「ロゴス」の意識の一部分をもつにすぎない。したがって「一者の法則」の言葉で言えば、それもまた「サブ・ロゴス」ということになるだろう。

次に、我々のような人間は、この意識の更に小さな部分をもつので、それは時に「サブ・サブ・ロゴス」と呼ばれる。

「一者の法則」の言葉では、我々の目標は究極的に“人格の透明性”に達することで、それは「ロゴス」としての我々の完全なアイデンティティと意識を取り戻すことである。

Lawofone.info というサイトは、この宇宙学の——宇宙的「ロゴス」の内部の7つの主たる「濃度」(次元)を含む——簡潔な要約を与えてくれる。

私は *The Synchronicity Key* (8月刊予定) の中で、この新しい知識を完全に理解可能で、楽しませ、インスピレーションを与えるものにしようと最善の努力を尽くした。

ここで私は、この本で論じつくせなかった幾つかの側面的議論を試みようと思う。

History とはどういう意味か？

History という言葉自体が、その背後に面白い歴史をもっている。

この語の語源は His Story、つまり「ロゴス」あるいは銀河系の心の物語、「キリスト意識」の物語ということである。

「彼の物語」は現代世界では、時代遅れの、ジェンダー的に偏った言葉であろう。しかしそれは、いかに歴史が、我々の学ばねばならないレッスンの同じパターンを現わしつづけるかを示すものである。

この物語は非常にはっきりしたデザインをもっていて、それは世界中の最も偉大な神話に書き込まれている。

我々の一人ひとりが英雄である

我々の一人ひとりが究極的には、「彼の物語」を生きる英雄である。

この物語の「プロット・ポイント」の一つひとつが「原型」と呼ばれる。

それらは銀河系の心そのものには書き込まれている。

それらは、我々の動きとともに我々の惑星や太陽系が移動していく宇宙空間に、書き込まれている。

我々の人生や決意は、これらのエネルギー的パターンによって、目には見えない善意によって導かれており——我々は決められた「啓蒙の学校」を卒業するようになっている。

この壮大な授業カリキュラムは、遠い遠い昔に、宇宙と銀河系そのものによってデザインされたものである。

最も偉大な永遠の謎を解く

私は 2012 年末に、大きな、精神を高め、畏敬を吹き込むような、霊的出来事が起こってほしかった。それは我々が引き継いだ諸々の予言の、一つのおそらく公然の楽観主義的な解釈であった。

「一者の法則」シリーズは、1981 年からほぼ 30 年後のどのあたりかで、我々は明瞭に「4 次濃度」に移行することになると、はっきり言っている。彼らはまた、この移行が完全に完了するのに 100 年から 700 年かかるだろうと言っている。

2012 年に「何も起こらなかった」らしいと分かったとき、我々は最初の出発点へ押し戻されることになった。そして、2012 年 12 月かそのあたりで終わると予定された、25,920 年地球サイクルを熟考することになった。

私は諦める気にはならなかった

あまりにも多くの古代文化が、この期間に起こると計算された魚座時代から水瓶座時代への転換点に、決定的な重要さを置いていたので、私はまだ諦める気にはならなかった。

たとえサイクルの“偉大なフィナーレ”が、私の期待していたようには演じられなかったとしても、それはすべてのデータを棄ててしまえ、ということの意味するものではない——それはきわめて大きな説得力と包括力をもつからだ。

そこで私は、*The Source Field Investigations* から割愛したあの同じ資料に戻って、これを見直さざるを得なかった。私はこの本を 200 頁近くも削って、500 頁に収めなければならなかったのである。この思い切った、恐ろしく苦痛なカットによって完全に削除された主題の一つは、歴史は繰り返すという奇怪な現象であった。

人間の文明における大きな出来事は、非常に正確な時間サイクルで、確かに繰り返されていることがわかってきた。

私たちはプロット・ポイントとは何か、いつそれが起こるかがわかっている

The Synchronicity Key において、私は削除されたこれらのページを復活させた——そして地上の生命のあらゆるミステリーの中で最大のミステリーと私が考えるものを解明した。

一つの偉大な台本が現実存在する——この地上で展開する出来事の背後にある、すべてを覆っている一つのストーリーが。

ひとたびあなたが、我々は一連のプロット・ポイントを通して常に移動しているということを理解したとき、我々の現在の歴史がどこに向かっているかについての恐怖は、すべて消え去るだろう。

我々は、これらの“プロット・ポイント”が何であるかを正確に理解できるだけでなく、それらがいつ起こるかも——驚くべき正確さで——知ることができる。

この新著の後半全体——大体 250 頁から 500 頁まで——は、これがどのように働いているかを示す豊富な科学的データを提供している。

「メッセンジャーを攻撃せよ」という常套手段

ここには証明可能な証拠が豊富でかつ確かだから、反対派がその信用を落とさせようとするならば、「メッセンジャーを攻撃せよ」という常套手段が、唯一使える方法となるだろう。

そして現在、あと一カ月余りで、読者はこの主張全体を、自分でじっくり研究していただくことができる——ハードカバー、eブック、またはオーディオブックの形で。

これは実は、4 年前、私が *The Source Field Investigations* を書き始めた時に書いたかった本なのだが、パズルの幾つかの鍵的ピースが見つからなかったのである。

私はまず 2012 年 12 月 21 日をやり過ごす必要があった。その上でなければ、この続編を整然と書き——我々の未来の通路を描くことはできなかった。

(事務的内容の数セクションを省略)

The Synchronicity Key (歴史的同時性の鍵)

この新しい本は、すべてこうした様々の計画を一つにまとめ、他のどこでも伝えることの不可能な、多くの詳細な事実を伝える“重力の中心”である。

ひとたびマヤ歴の終末をやり過ごしたとき、私は、25,920年サイクルのもつ秘密は、歴史の幾つかの大きなサイクルの中に見出さなければならないことを知った。

これらのサイクルのすべては、“Great Year”——地球が太陽をまわる25,920回転に当たる——の完全なサブ・ディヴィジョンである。

これがどのように働いているかの謎を私が解いたのは、昨年8月のことにすぎず、これほど短時間にすべてをまとめるのは、全く暴れ馬を乗りこなすような仕事であった。それは完全に私を疲労困憊させた——しかし完全にそれだけの価値はあった！

この本は、私が前著でなしえたよりも、はるかに確かな物語構造と“流れ”をもっている。

何ひとつ削る必要はなかった。私は前より多くの時間をかけて、そのすべてが単一の繋がりをもつものになるよう心がけた。

私は読者の皆さまの支援に感謝申し上げます——多くの方々の支援があつて、**我々は結果を変えることができる**からである。

これは、Financial Tyrannyの最も深い秘密と、今その完全な暴露と敗退へ追い込まれつつある、壮大な、宇宙的物語を明らかにする、私の知る初めての市販の本である。

前著は全く政治には踏み込まなかった。最初に私は、カンヴァスとパレットを用意しなければならなかった。今、私は最初の絵を創造した——そしてこの科学が、個人的にも集団的にも、我々自身の生活にどう適用されるかを明らかにした！

再び、我々の歴史のこの危機的瞬間に支援して下さる皆様に感謝申し上げます。自由が見えてきた——このあとにやって来るものは、間違いなく世界の創造力を虜にするだろう。

Author of the *New York Times* bestseller
THE SOURCE FIELD INVESTIGATIONS

**DAVID
WILCOCK**

**DAVID
WILCOCK**

*The Hidden Intelligence
Guiding the Universe
and You*

THE
**SYNCHRONICITY
KEY**

THE
**SYNCHRONICITY
KEY**




DUTTON